

平成31年度 第3回和泉総合高校学校運営協議会 議事録

日 時 令和2年1月31日(金) 14:00~16:00

場 所 本校 応接室

出席者 委員(敬称略)

寺脇 久人(会長) 上條 藤夫(副会長) 一井 正次
葛城 雅之 森脇 隆行 花田 志津江

学校・事務局

校長 事務部長 教頭 首席 進路指導主事 生活指導主事

1. 校長挨拶(校長)

2.

- ・平成31年度及び令和2年度 学校経営計画及び学校評価について(校長)
- ・学校教育自己診断について(教頭)
- ・エンパワメントスクールにおける生徒支援体制について(首席)
- ・進路状況について(進路指導主事)
- ・今年度の新しい試みと今後のあり方について(生活指導主事)

3. 全体協議

- ・生徒の卒業に向けて、臨機応変に内規を解釈・変更していることはとてもよい。
- ・勉強する場や環境整備について考えてほしい。
(同窓会やPTAなどから援助頂き整備した例もある)
- ・教育相談についてもしっかり対応されていることは有難い。
- ・地域交流もどんどん進めてほしい。
- ・生徒の資格取得や研修等について、書類選考や発表会を行うなどを条件に同窓会等から費用面の補助を検討してほしい。この様なことがこれからの学習の方向だと思う。
- ・非常によく頑張ってくれていることを再確認できた。

- ・平成31年度学校評価の説明を受けて、非常に上手く学校経営を行っている。
- ・懲戒や欠席、遅刻など大変なところもしっかり指導を行っている。
- ・進路指導は早めの対応が必要。また、学校全体での協力体制も必要。
- ・キャリア教育は難しいところもあるが、生徒の将来に関わるところでもあるので頑張ってやってほしい。
- ・指導の成果により、3年生の欠席数・遅刻数が2年生の時に比べるとかなり減っている。
- ・教職員の頑張りが各所に見られる。

- 西田宗城選手の講演会は非常に良かった。また、皆のいるところで質問ができる生徒がいたことは感心した。地域からの参加もありよかった。このような地域も参加できる講演会を年一回は行ってほしい。

当日体育館の寒い中、生徒が静かに講演を聞いていたことがとてもうれしかった。生徒一人一人は成長しており、卒業に向けて保護者の協力も欠かせない。

保護者が学校行事に参加しやすいよう土曜日の活用も検討している。(校長)

- 学校教育自己診断アンケート(保護者分)の回収率アップについて、取組みの成果が出ている。
- 学校での取組みを外部にどんどん発信していくことの影響は大きいので、その機会を多く持つことが大切である。
- エンパワメントスクールに改編し、入試の時期も変わり今がステップアップのチャンスである。「和泉総合高校に行けば出来る事」が浸透すれば、おのずと生徒は集まってくるのではないか。
- 将来を意識し目標を持つことで、授業への取組む態度が変わり、生徒が落ち着いていく。

体育館への空調機設置は、生徒の安全を考えスポットクーラーが設置される予定だが、同窓会等に協力を得て他の施設も整えたい。特に放課後、先生方が生徒と関わる自習室(又は居場所)を整備することは喫緊の課題である。(校長)

学校管理費の70%程度は施設を維持するために支出しており、生徒のためになる前向きなことに使うお金はがなかなか無い。(事務部長)

- 地域の方が学校に関わることで生徒の成長がみられる。小学校への出前授業などにより和泉総合高校生の一端が見え、小学生にとって将来的なキャリアの目標につながる。
- 生徒支援体制が非常に進んでいる。小中高と生徒の実情を引き継いでいく必要がある。
- 小中でコグトレを使っているので、和泉総合でも継続してもらいたい。

今後の取組みとして、SCとの面談の中でコグトレを行い、認知の面での特徴があれば和泉支援学校に細かなアセスメントをお願いしていく。(首席)

- 学校にできる環境づくりとして、PTAからは毎年生徒が必要とする物を送っている。
- 西田宗城選手の講演会が成功してよかった。日程調整がもっと早くにできていればよかった。

和泉市出身の世界的なアスリートであり、地元をとっても大切にされている方である。オリンピック・パラリンピックイヤーの大事な時期に、競技の合間をぬって講演が実現できただけでも奇跡と思っている。(校長)